

# CDP2014 優秀企業

## 本田技研工業株式会社



本田技研工業株式会社  
代表取締役社長執行役員 伊東 孝紳氏

この度はCDLI満点と言う最高の評価を頂き、当社としてこの報告会でのスピーチは4年連続となります。当社は自由な移動の喜びと豊かで持続可能な社会の実現を、環境・安全のビジョンとして掲げ、チャレンジをしております。そしてあらゆる事業課程の中で環境問題を最重要課題の一つとして捉えています。その解決に向け、我々は自らのビジネスを製品領域と企業活動領域の二つに対立させながら様々な環境負荷の最小化にチャレンジしております。

まず製品領域では全世界で販売する製品のCO2排出量を2020年迄に2000年比で30%低減すると言うグローバル目標を定めています。又、燃料電池を将来の究極のクリーンパワーと捉え、積極的に開発を進め、2008年6月には世界に先駆けてFCXクラリティをリリース販売しました。

更に2015年にはその後継となるモデルを日本と北米で、その後欧州で順次販売を予定しております。一方企業活動領域においても世界各地で様々な取り組みを実施しています。ブラジルでは2015年に27メガワットを発電する大規模な風力発

電設備が完成致します。その結果、ブラジルにおける4輪生産に必要な年間電力量を全て再生可能エネルギーで創出致します。これはブラジルの自動車業界では初めての試みとなります。又、中国では2014年中に全土で30メガワットを発電出来る巨大なソーラーシステムを設置し、規模の大きな4輪工場だけでなく販売店にも小規模なソーラーパネルを設置して積極的に展開をしているところ です。

気候変動問題という観点で昨今の世界情勢をみると、2015年に開催されるCOP21に向けて大きく動き始めていると感じております。COP21に先駆けて先日行われた国連のクライメイトサミットでも気温上昇を2度以内に抑える事を最重要課題として議論が交わされています。このクライメイトサミットに合わせてCOPから環境先進企業に向けて6つのイニシアティブの提案がなされ、当社としては3項目について賛同を表明いたしました。自らの事業継続と環境保全の両立が必要であることを充分認識しておりますが、このイニシアティブ全てに賛同する迄には至っておりません。

当社は産業界の置かれた立場をしっかりと認識し、CDPとも連携し、対話を繰り返す事でより高い次元での環境問題解決に繋がる様、全力を注いで参ります。今年、当社ではかねてより夢であったホンダジェット1号機の初飛行に成功いたしました。これは当社が培ってきた様々な最先端技術で取り組み、ロークラスと最高の速度と燃費性能を実現した小型ビジネスジェット機で、創業時からの夢でした。

又、2015年のシーズンからF1レースに復帰します。自動車メーカーにとってチャレンジングな新レギュレーションも導入され、最新のターボ技術によるエンジンの小排気量化、新次元のハイブリッドシステム、そして重さ100キロまでの厳しい燃料使用制限など、F1レースでも環境技術が問われる時代になったと言えます。このレース活動を通して更に技術を磨き、より環境にやさしい車造りに繋げていこうと思っております。

ホンダは全ての企業活動において先進的な環境への取り組みを続けて参ります。今後共是非ホンダチャレンジにご期待下さい。